2日決勝 2年ぶり激突

県高校サッカー

富岡 後半に一撃

尚志 5発で快勝

第92回全国高校サッカー選手権大会県大会2次大会は26日、鏡石町の鳥見山陸上競技場で準決勝2試合を行い、第1シード尚志と第2シード富岡がそれぞれ2年ぶりに決勝進出を決めた。決勝は11月2日に同競技場で行われる。尚志は2年ぶり6度目の優勝を狙う。富岡は5年ぶり2度目の全国大会出場を目指す。試合は午後0時10分開始予定。

【富岡―福島東】後半21分、左サイドからドリブルで駆け上がり、決勝ゴールを決める富岡のMF佐藤大　＝鳥見山陸上競技場

佐藤大 千金ゴール

ボールを支配し、何度も決定機がありながらゴールが遠かった富岡。後半21分、1点がほしい場面でMF佐藤大悟（3年）のドリブルシュートがゴールネットを揺らし、歓喜の瞬間が訪れた。

「いいパスだったので行けると思い、打ちました」と佐藤大。FW内山翔太（3年）からのパスを左サイドで受け、DFに囲まれながらGKの股を抜く技ありのゴールだった。

試合を優位に進めながら決め手を欠いていた中での殊勲のゴールに、佐藤弘八監督は「うちの攻撃の形の一つが出た。大悟が思いきり打ってくれてことで硬さが取れた」とたたえた。

福島東の堅守を破り、2年ぶりの決勝進出。決勝の相手は〝ライバル〟の尚志に決まった。県高体決勝でも対戦し延長の末、0―1で敗れ、インターハイ出場を逃した因縁の相手だ。佐藤監督は「尚志の勝負強さはすごいが、今年は選手もそろっている。勝って全国に行きたい」と意気込んだ。

準々決勝は先発を外れながらも、佐藤監督の先発起用に見事に応えてヒーローになった佐藤大は「（富岡から）避難している人もいる中で、少しでも明るいニュースを届けたい。優勝するしかない。やります」と5年ぶりの全国出場へ力強く語った。（紺野）

【評】富岡は運動量で圧倒した。後半21分に奪った1点を守り切り、5年ぶりに4強入りを果たした福島東を退けた。

富岡は前半、シュート6本を放つも無得点で折り返した。シュート7本を放った後半は21分、FW内山のパスを受けたMF佐藤大が左サイドからドリブルで駆け上がり、決勝点を決めた。

福島東はカウンター攻撃でゴールに迫ったが、得点を奪えなかった。（紺野）

▽準決勝

尚志 5（1―0、4―0）0 郡山商

▽得点者【尚】田鹿、鮮島、蔵五、慶野、佐藤誉

【郡山商】
GK 服部
DF 土田 遠藤 長谷川 柳谷 柳沼 滝口 渡辺 村上 三浦 高田
MF 田中
FW 佐藤

【尚志】
GK 河内
DF 佐藤 稲田 久保 渡辺 篠崎 高橋
MF 鮮島 田林 佐藤誉 鹿田

▽交代
【尚】
後15分　津田0（田鹿）
後22分　慶野1（鮮島）
後28分　蔵五1（林）
後34分　長崎0（佐藤翔）
【郡】
後9分　磐田1（島田）
後25分　星野1（村上）

富岡 1（0―0、1―0）0 福島東

▽得点者【富】佐藤大

【福島東】
GK 角田
DF 林 藤原 野澤 宮原 星 井手 長野
MF 佐藤大 岡田 平 福田 佐藤 酒井 金澤 藤浅
FW 瀬野 谷藤 佐藤 沢田 大本 山内 末木

【富岡】
GK 高橋
DF 佐藤 石井 須藤 佐藤 佐藤 佐藤 坂本 内藤 高橋
MF 佐藤大 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤
FW 佐藤

▽交代
【富】
後20分　草野0（保田）
後31分　菊地0（須藤）
後32分　高橋0（佐藤大）
後40分　鈴木拓0（内山）
【福】
後21分　近藤0（林）
後25分　三浦0（茂野）

田鹿の先制弾 口火

【尚志―郡山商】前半37分、左サイドから先制ゴールを決める尚志のFW田鹿　＝鳥見山陸上競技場

尚志が5得点の快勝で2年ぶりの決勝進出を決めた。仲村浩二監督は「大量点はたまたま。きちんとプラン通りの展開に持ち込めた」と選手を褒め盤石の戦いぶりで全国大会出場を射程圏内に捉えた。

前半はシュート8本を放ち、圧倒しながらもゴールを奪いきれなかった。焦る選手を落ち着かせたのはFW田鹿富夢（3年）の先制点だった。前半37分、DFを引き付けたMF高慶汰（3年）からスルーパスをフリーで受けた田鹿は左サイドを駆け上がり、ゴール右隅を狙った。

持ち前のスピードでDFを置き去りにする鮮やかなゴールを決めた田鹿は「ボールが来ると信じて走った。感覚で打ち、いい感じで当たった」と充実感を漂わせた。選手は試合後に、仲村監督にサッカーノートを提出している。田鹿には仲村監督から「1試合で1点か、1アシストをしろ」のメッセージ。田鹿のゴールはその指示通りの活躍だった。

昨年は準決勝で福島工に延長戦の末、敗れた。田鹿は「決勝では喜ばせるプレーを見せたい。ドリブルで点を取りたい」と闘志を燃やす。120人を超える部員の中での激しいメンバー争いを経て力強さを増した選手たち。昨年悔しさを知る高は「3年生中心に戦い、優勝を勝ち取りたい」と決勝を見据えた。（紺野）

【評】終始試合を支配した尚志が後半に持ち前の攻撃力を爆発させ、大量得点で郡山商を突き放した。

序盤から果敢に攻撃を仕掛けた尚志は前半37分、MF高のパスを受けたフリーのFW田鹿が落ち着いて決め先制。後半は決定力の違いを見せつけ大量4得点で試合を決した。

郡山商は組織的な粘り強い守備からのカウンターで前半は尚志を苦しめたが、後半に力尽きた。（小暮）

福島東 一瞬の隙

悔やまれる失点

☹…5年ぶりの決勝を目指した福島東は体を張った粘り強い守備で接戦に持ち込んだが、富岡の一発に沈んだ。

サイド攻撃を多用する相手に対してペナルティーエリア内を固め、サイドからのクロスに身をていして対応。決定機を防ぎ続けた。守護神として好セーブを連発し、チームをリードした主将のGK角田圭太（3年）は「DFの足が止まった一瞬の隙を突かれてしまった」と唯一の失点の場面を振り返り、「スタンドで声援を送ってくれた同級生たちの期待に応えられず悔しい」と唇をかみしめた。

鈴木清文監督は「プラン通りの試合運びができていたが攻撃面でうまく切り替えできなかった。選手たちはよく守ってくれた」とイレブンの奮闘をたたえた。

郡商 無念の後半

勝負どころ連続失点

☹…前回王者の聖光学院を破り、勢いに乗って準決勝に臨んだ郡山商だったが、強豪尚志の攻撃力の前に力尽き、涙をのんだ。

エースで主将のFW島田旬（3年）は準々決勝で負傷した右太もものけがを抱えながら出場を志願した。前線で攻撃のターゲットとなりチームを鼓舞したが「何もできなかった。チームに迷惑をかけてしまい、申し訳ない」と肩を落とした。

エースの故障などで十分な戦力で臨めなかった。前半は堅守で応戦したが、後半の攻撃に転じた勝負どころで失点を重ねた。斉藤勝監督は「力に勝る相手を無失点に抑え、いかに苦しめるかが課題だった。前半に失点を許し、攻めざるを得なくなった」と悔しさをにじませた。